第1回 JAアグリあなん 産地パワーアップ大会 開催!!

7月13日(水)に、「寿殿えもと」にて管内の各生産部会の代表者とJA関係者約80名が集まり、第1回JAアグリあなん産地パワーアップ大会が開催されました。中西組合長は、生産者のみなさまから意見や要望・提言をいただきたいことや、米作り、露地野菜の拡大などを推進する3ヵ年の営農振興計画を説明し、連動する7つの支援対策を挙げ挨拶としました。

営農販売部の担当者から、産地力強化に向けたJAの支援体制・農業経営事業への取組みと、そして、活力ある地域づくり応援事業について説明がありました。生産者からは、事業に対しての質問・要望や提案が多く出されました。

その後、JA徳島中央会　三谷常務による「JAグループの自己改革について」のテーマで基調講演が行われました。

島村常務

「基調講演」徳島中央会　三谷常務

農業者の所得増大、農業生産の拡大と地域の活性化を目指して

vol.1 JAアグリあなんの 自己改革への取り組み

JAアグリあなんは、平成28年のJA徳島大会 決議に基づき、

農業者の所得増大　**農業 生産の拡大**　**地域の活性化**

の３つの目標を掲げ、自己改革に取り組んでいます！

◆なぜ自己改革が必要なのでしょうか？

政府が決定した「農林水産業・地域の活力創造プラン」で、農協改革を進めるために農協法を改正し、JAの理事の要件見直しや中央会制度の廃止等が盛り込まれました。

また組織外からは准組合員制度や、JAの総合事業に対して様々な意見もあります。

このような中、JAグループは「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、「持続可能な農業」と「豊かでくらしやすい地域社会」を実現するため、上記の３つを基本目標として自己改革に取り組むこととしました。

◆組合員の皆さんへのお願い

政府はJA改革について、実践状況や組合員のJA評価を調査することになっています。

しかし、この調査は対象者が一部の担い手（認定農業者）に限定されています。JAグループではより多くの組合員の皆さんの意見を政府に届けるため、平成31年に組合員の皆さんを対象としたアンケートを実施します。

また30年１月から、JAアグリあなん管内の1,500人を対象に試行調査を実施します。対象となられた皆さんにはアンケートへのご協力をよろしくお願いします。

具体的な取り組み

農業者の所得増大

■売れる米作り

阿波美人の知名度向上と直接販売の強化
プレミアム阿波美人の食味値向上によるブランド力強化
★平成28年度助成　2,757,480円
平成29年度助成見込　1,800,000円
（Ｌ網交換助成、展示圃設置、コンクール開催、視察研修開催）

- Ｌ網（1.85㎜目）への交換による米の均質化については平成29年産阿波美人の出荷シェアが84.4%となり、販売先でもJAアグリあなんの阿波美人として認知され、約８万袋をJA自らが直接販売し、再生産可能な米価へと反映し、出荷者へ還元いたしました。
- プレミアム阿波美人については15名の熱心な生産者とともに環境にやさしい良食味米生産へ挑戦し、展示圃の設置やコンクールの開催、コンクールへの出品をすることにより米生産における現状での問題点・課題の洗い出しを行いました。

■ブランド力の向上

安２ＧＡＰ導入による安全・安心のＰＲ
輸出事業継続と輸出品目の積極的拡大

- 農業生産の中で起こりうる危険性をできる限り低減し、安全性を高める改善活動であるGAP（GoodAgriculture　Practice：農業生産工程管理）の考え方と農場管理手法を取り入れ、「食品安全」の他、「環境保全」や「労働安全」等に配慮した農業生産活動を推進するためにＪＧＡＰ指導員を２名養成しました。
- 平成29年９月に「木頭ゆず」がGI（地理的表示保護制度）登録され、海外への販売を視野に、売り上げアップにつなげます。また、海川加工場を大規模改修し、搾汁作業の効率化を図り、原料買取単価向上に努めます。

■低コスト農業の普及

生産資材価格の引き下げ
大規模担い手対策の強化
農業機械の低コスト導入

★平成28年度中古農機販売額　10,435,080円
平成29年度上期中古農機販売額　3,120,000円

- 主要農薬200品目の見積り合わせを実施し、主力農薬26品目を予約購買により価格引き下げを行いました。
- 大規模担い手に対して大口奨励や肥料の満車直行便、農薬の大型規格の推進などに取り組みました。
- 担い手の機械整備に係る費用負担低減に取り組むために古物商資格を取得し、中古農機の斡旋に取り組みました。

地域活性化

■活力ある地域づくりへの貢献

活力ある地域づくり応援事業
★平成28年度助成額　3,707,360円
平成29年度助成見込　1,100,000円

食農教育と地域貢献

- 管内の地域住民が地域の活性化を目的として主体的に行う新たな取り組みに対して支援を行いました。第１回目は、椿ママドル・相生直売所組合・那賀町商工会鷲敷女性部・加茂谷元気なまちづくり会、第２回目は、はたえだ直売所・JAアグリあなん平谷女性部に対して支援を行いました。
- JA女性部が中心となり次代を担う未来ある子供たちに食と農の大切さを伝えるために、「ちゃぐりんフェスタ」や「農業体験スクール」、「親子料理教室」、「男性料理教室」を開催し、活力ある生活文化活動では、「アグリきらめきカレッジ」の開校や「カルチャー教室」、「福寿荘慰問」等を実施しました。

３月号へ続く

vol.2 JAアグリあなんの 自己改革への取り組み

JAアグリあなんは、平成28年のJA徳島大会 決議に基づき、

農業者の所得増大　**農業 生産の拡大**　**地域の活性化**

の３つの目標を掲げ、自己改革に取り組んでいます！

◆なぜ自己改革が必要なのでしょうか？

政府が決定した「農林水産業・地域の活力創造プラン」で、農協改革を進めるために農協法を改正し、JAの理事の要件見直しや中央会制度の廃止等が盛り込まれました。

また組織外からは准組合員制度や、JAの総合事業に対して様々な意見もあります。

このような中、JAグループは「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、「持続可能な農業」と「豊かでくらしやすい地域社会」を実現するため、上記の３つを基本目標として自己改革に取り組むこととしました。

◆組合員の皆さんへのお願い

政府はJA改革について、実践状況や組合員のJA評価を調査することになっています。

しかし、この調査は対象者が一部の担い手（認定農業者）に限定されています。JAグループではより多くの組合員の皆さんの意見を政府に届けるため、平成31年に組合員の皆さんを対象としたアンケートを実施します。

また30年１月から、JAアグリあなん管内の1,500人を対象に試行調査を実施します。対象となられた皆さんにはアンケートへのご協力をよろしくお願いします。

具体的な取り組み

農業生産の拡大

■野菜の増産

露地野菜の面積拡大
- ★平成28年助成金合計　12,160,385円
- ★平成29年助成金見込合計　14,950,872円

施設野菜の産地化
- ★平成28年助成金合計　11,446,700円
- ★平成29年助成金見込合計　20,606,000円

- 露地野菜で重点的品目としてキャベツ・ブロッコリー・菜の花・オクラ・洋人参・かぶらを選定し、ファームサービス用機械の拡充と作業料金の一部助成や、お助けセンターによる労働支援、製氷機導入による鮮度保持販売への取り組み、種苗・肥料代の一部助成による面積拡大支援等を行い、重点品目の合計面積を6.4ha増反しました。
- 施設野菜については、きゅうり、ミニトマト、苺、葉わさび等幅広い品目の施設園芸の振興（平成28年1,324㎡新設、平成29年2,913㎡新設見込）に取り組み、施設導入費の一部を助成し、生産者負担の低減に努めました。また、出荷量の増加が見込まれるきゅうりについては選果機制御部、製函機等の更新も行いました。

■地域特産品の育成

果樹産地の再生
- ★平成28年助成金合計　8,230,000円
- ★平成29年助成金見込合計　13,563,300円

花卉栽培面積の拡大
- ★平成28年助成金合計　20,852,900円
- ★平成29年助成金見込合計　5,319,600円

たけのこ園地の再生
- ★平成29年助成金見込合計　3,049,128円

- スダチの生産面積拡大を推進し、施設導入費の一部助成を行うとともに生産量が拡大傾向にあるスダチの選果作業の効率化を図るための選果機更新に取り組みました。施設果樹については、温室内環境遠隔モニタリングシステムを導入し、産地全体の栽培技術向上の為、施設内環境の数値化をすすめました。
- 那賀町管内の若手後継者に対し、特産品である相生の花の施設化を推進し（平成28年2,538㎡新設、平成29年621㎡新設見込）、JAによるリースハウスにより生産者負担を軽減した上で施設の導入整備をすすめました。また、フリージア・コワニーについては球根培養施設を整備し、長期間にわたって安定的に生産が可能な産地作りに取り組みました。
- 関係機関と連携し、たけのこ園地の再生に取り組む「けんなんたけのこアカデミー」を開設し、たけのこの産地振興方針を協議しました。その一環としてたけのこの生産振興に係る対策として土づくり資材の一部を助成しました。

■担い手育成支援体制の強化

JAによる農業経営の開始	★平成28年研修生2名・平成29年研修生3名	
無料職業紹介事業による担い手の労力支援	★平成28年雇用契約件数	168件
	★平成29年雇用契約見込	180件
鳥獣被害対策設備の普及による農地保全支援	★平成28年設備費	4,977,020円
	★平成29年設備見込	8,954,178円

- 地域農業を支える担い手の農業経営をサポートするとともに、未来の農業を担う後継者を育成し、地域の農地を守ることを目的として、ＪＡ自らが地域農業の担い手組織として出発しました。その中で、研修生を受け入れ、育成し、就農へと導くために研修農場を開設し、研修生に対する基礎講座「けんなんニューファーマー育成講座」も合わせて開講しました。
- 管内全域で求人求職を広報し、繁忙期の担い手への支援を行い、労力軽減に努めました。
- 国、県、市町、JA等、幅広い助成措置を活用し、管内全域の鳥獣被害対策設備普及に取り組みました。

ＪＡの自己改革

～なくてはならない組織へ自らを変える～

ＪＡアグリあなんでは、６月26日（火）木頭ゆずを使った「木頭ゆずサイダー」を新発売しました。

同商品は、昨年９月に大規模改修工事が行われた海川加工場にて搾汁された果汁が使用されています。同加工場は、国、徳島県、那賀町の支援と生産部会関係者をはじめとする地元関係各位の協力をうけ、総事業費約４億１千万円をかけて工事が行われました。

製造充填設備、貯蔵設備等が一新された海川加工場では一定の基準を満たし意欲的に衛生管理に取り組む事業者に対して徳島県が認定する県版HACCP（ハサップ）の認証を受けました。この認証を受けたことで衛生管理に対する規程が今まで以上に整備され国際的にも通用する食品衛生管理方式が導入されました。

通常荷受されたゆずは荷受室のローラーコンベアから搾汁室に運ばれ果実が搾汁されます。その際、残る皮等は通常産業廃棄物となりますが、綺麗なものについては生食用や香料などの別の商品として再利用されています。その後、搾汁された果汁は生果汁として充填され急速冷凍庫で鮮度を保ったまま冷凍保管されます。また、小びん商品等は、殺菌冷却処理後充填され冷蔵庫で保管されます。

原料となる木頭ゆずは果皮障害が少なく、外観が美しいことや果汁の多さ、香りの良さが評価され、地域の伝統的な生産方法や産品の特性、品質、社会的評価が産地と結び付き、知的財産として登録し保護する地理的表示保護制度（ＧＩ）の対象となっています。

そして、今回新たに開発されたのが、木頭ゆずの果汁を用いた「木頭ゆずサイダー」です。実際に試飲した方の感想は「甘すぎず、すっきりした味でとても飲みやすい。」との声がありました。「木頭ゆずサイダー」は同ＪＡ経済部、他県内各量販店にて発売される予定です。ＪＡアグリあなんでは自己改革の一環として地域組合員の農業所得の増大と地域活性化のため、関係機関と連携し、地域農業の振興をすすめていきます。

木頭ゆずサイダー。絶賛発売中!!

設備が一新した海川加工場

海川加工場改修概要

洗浄・皮詰スペース
ブラシ式洗浄機
果皮自動箱詰機
ドラム式タネふるい機

急速冷凍室

冷蔵庫
プレハブ式冷蔵庫

原料荷受室
原料供給ホッパー
手選別ローラーコンベア

搾汁室
搾汁機
ロータリースライサー
円径振動濾過機

冷凍庫
プレハブ冷凍庫

JAアグリあなんの　自己改革への取り組み

JAアグリあなんは、平成30年のJA徳島大会　決議に基づき、

農業者の所得増大　**農業 生産の拡大**　**地域の活性化**

の３つの取り組みを前進させるため、自己改革のさらなる実践に取り組んでいます！

◆なぜ自己改革が必要なのでしょうか？

政府が決定した「農林水産業・地域の活力創造プラン」で、農協改革を進めるために農協法を改正し、JAの理事の要件見直しや中央会制度の廃止等が盛り込まれました。

また組織外からは准組合員制度や、JAの総合事業に対しての意見もあります。

このような中、JAグループは「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、「持続可能な農業」と「豊かでくらしやすい地域社会」を実現するため、現在上記の３つを基本目標とした自己改革に取り組んでいます。

◆組合員の皆さんへのお願い

政府はJA改革について、実践状況や組合員のJA評価の調査を行っています。

しかし、この調査は対象者が一部の担い手（認定農業者）に限定されています。JAグループではより多くの組合員の皆さんの意見を政府に届けるため、平成31年１月から組合員の皆さんを対象にアンケートを実施しますので、ご協力をよろしくお願いします。

	取り組み内容	取り組み後の実績（平成30年９月末）
農業者の所得増大	**■売れる米作り** 阿波美人の知名度向上と直接販売の強化 プレミアム阿波美人の食味値向上によるブランド力強化 平成29年度助成　1,956,501円 （Ｌ網交換助成、展示圃設置、コンクール開催、視察研修開催） 	● Ｌ網（1.85㎜目）への交換により米が均質化されたことで平成30年産阿波美人の出荷シェアが81.8%となり、販売先でもJAアグリあなんの阿波美人として認知され、米の有利販売として全量買取を行い、JA自らが直接販売し、再生産可能な米価へと反映させれるよう取り組みました。 ● プレミアム阿波美人については14名の熱心な生産者とともに環境にやさしい良食味米生産への挑戦を行い、展示圃の設置やコンクールの開催、コンクールへの出品を行う事により米生産における現状での問題点・課題の洗い出しに取り組みました。 ● 「ほしじるし」を３戸128aで、「ほむすめ舞」を３戸130aで試験栽培するなど、有望品種の導入に取り組みました。
	■ブランド力の向上 安２ＧＡＰ導入による安全・安心のＰＲ 輸出事業継続と輸出品目の積極的拡大 	● 農業生産の中で起こりうる危険性をできる限り低減し、安全性を高める改善活動であるGAP（GoodAgriculture　Practice：農業生産工程管理）の考え方と農場管理手法を取り入れ、「食品安全」の他、「環境保全」や「労働安全」等に配慮した農業生産活動を推進するためにJAGAP指導員を５名養成しました。 ● 昨年ＧＩ（地理的表示保護制度）登録された「木頭ゆず」の海外販売を展開し、売り上げアップに取り組みました。また、海川加工場を大規模改修し、搾汁作業の効率化を図り、原料買取単価向上に努めました。
	■低コスト農業の普及　生産資材価格の引き下げ 大規模担い手対策の強化 農業機械の低コスト導入 平成30年度上期中古農機販売額　5,740,000円	● 主要農薬210品目の見積り合わせを実施し、主力農薬26品目を予約購買により価格引き下げを行いました。 ● 大規模担い手に対して大口奨励や肥料の満車直行便、農薬の大型規格の推進などに取り組みました。 ● 担い手の機械整備に係る費用負担低減に取り組むために古物商資格を取得し、中古農機の斡旋に取り組みました。
地域活性化	**■活力ある地域づくりへの貢献** 食農教育と地域貢献 	● JA女性部が中心となり女性大学の開校やカルチャー教室、福寿荘慰問、親子料理教室、男性料理教室等開催し、JA食農教育と活力ある生活文化活動を実施しました。

JAアグリあなんの　自己改革への取り組み

JAアグリあなんは、平成30年のJA徳島大会　決議に基づき、

農業者の所得増大　**農業 生産の拡大**　**地域の活性化**

の３つの取り組みを前進させるため、
自己改革のさらなる実践に取り組んでいます！

◆なぜ自己改革が必要なのでしょうか？

政府が決定した「農林水産業・地域の活力創造プラン」で、農協改革を進めるために農協法を改正し、JAの理事の要件見直しや中央会制度の廃止等が盛り込まれました。

また組織外からは准組合員制度や、JAの総合事業に対しての意見もあります。

このような中、JAグループは「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、「持続可能な農業」と「豊かでくらしやすい地域社会」を実現するため、現在上記の３つを基本目標とした自己改革に取り組んでいます。

◆組合員の皆さんへのお願い

政府はJA改革について、実践状況や組合員のJA評価の調査を行っています。

しかし、この調査は対象者が一部の担い手（認定農業者）に限定されています。JAグループではより多くの組合員の皆さんの意見を政府に届けるため、平成31年１月から組合員の皆さんを対象にアンケートを実施しますので、ご協力をよろしくお願いします。

具体的な取り組み

農業生産の拡大

■野菜の増産

露地野菜の面積拡大

平成28年補助金額	12,160,385円
平成29年補助金額	10,358,052円
平成30年助成額	12,827,129円

施設野菜の産地化

平成28年助成金合計	11,446,700円
平成29年補助金額	20,375,200円
平成30年補助金額	53,584,500円

- 露地野菜で重点的品目としてキャベツ・ブロッコリー・菜の花・オクラ・洋人参・かぶらを選定し、種苗・肥料代の一部助成による面積拡大支援を行い、ファームサービス用機械の拡充とお助けセンターによる労力支援や製氷機導入による鮮度保持販売に取り組みました。
- 施設野菜については、きゅうり、チンゲンサイ、ミニトマト、苺、七草、アスパラ、葉わさび等幅広い品目の施設園芸の振興（平成28年1,324㎡新設、平成29年3,169㎡新設、平成30年12,517㎡新設）に取り組み、施設導入費の一部を助成し、生産者負担の低減に努めました。また、出荷量の増加が見込まれるきゅうりについては選果機制御部、製函機等の更新も行いました。

■地域特産品の育成

果樹産地の再生

平成28年補助金額	8,230,000円
平成29年補助金額	13,555,600円

花卉栽培面積の拡大

平成28年補助金額	20,852,900円
平成29年補助金額	4,357,400円

たけのこ園地の再生

平成29年補助金額	5,604,806円
平成30年補助金額	2,950,436円

- 施設果樹については、温室内環境遠隔モニタリングシステムを導入し、産地全体の栽培技術向上の為、施設内環境の数値化をすすめました。スダチの生産面積拡大を推進し（平成28年1,324㎡新設）、施設導入費の一部助成を行うとともに生産量が拡大傾向にあるスダチの選果作業の効率化を図るための選果機更新に取り組みました。近年、直売要望の多いハウスみかんについては選果機を更新し、平成31年度からの直接販売が可能な体制づくりに取り組みました。
- 那賀町管内の若手後継者に対し、特産品である相生の花の施設化を推進し（平成28年2,538㎡新設、平成29年621㎡新設）、JAによるリースハウスにより生産者負担を軽減した上で施設の導入整備をすすめました。また、フリージア・コワニーについては球根培養施設を整備し、長期間にわたって安定的に生産が可能な産地作りに取り組みました。
- 関係機関と連携し、たけのこ園地の再生に取り組む「けんなんたけのこアカデミー」を開設し、たけのこの産地振興方針を協議しました。その一環としてたけのこの生産振興に係る対策として土づくり資材の一部助成や兼業農家が参加しやすい休日開催の親竹更新講習会を開催しました。

■担い手サポート体制の強化

JAによる農業経営事業の開始　施設　7,245㎡、露地　48,405㎡
平成28年研修生２名・平成29年研修生３名・平成30年研修生１名

無料職業紹介事業による担い手の労力支援

平成28年雇用契約件数	168件
平成29年雇用契約件数	180件
平成30年雇用契約見込	180件

鳥獣被害対策設備の普及による農地保全支援

平成28年設備費	4,977,020円
平成29年設備費	9,080,125円
平成30年設備費見込	9,080,125円

- 地域農業を支える担い手の農業経営をサポートするとともに、未来の農業を担う後継者を育成し、地域の農地を守ることを目的として、JA自らが地域農業の担い手組織として出発しました。その中で、研修生を受け入れ、育成し、就農へと導くために研修農場を開設し、研修生に対する基礎講座「けんなんニューファーマー育成講座」も合わせて開講しました。
- 管内全域で求人求職を広報し、繁忙期の担い手への労働力支援を行い、労力軽減に努めました。
- 国、市町、JA等、幅広い助成措置を活用し、管内全域に鳥獣被害対策設備の普及に取り組みました。